

空に向かってまっすぐ伸びるアスペンツリーと
スキーヤー塚田卓弥。アスペンマウンテンにて

Aspen アスペン

スキーヤーのためのリゾート

ラグジュアリーリゾートでありながら、
パウダー、急斜面、コブ斜面など
上級者の滑走意欲を湧かせるワイルドな場所、
アスペン。ここには“スキー人”が集まる。

写真・渡辺洋一
photographs by Yoichi Watanabe
文・編集部
text by Blueguide Ski Magazine



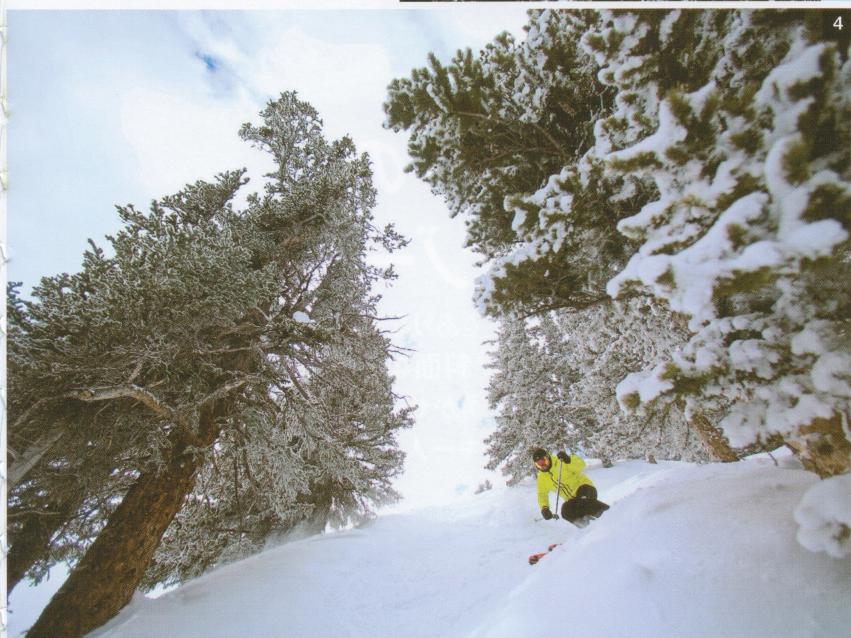


1.地形豊かなアスペンマウンテン。急斜面が多いが、圧雪コースはよく整備されてすべりやすい。山頂部からの景観も素晴らしい 2.暮盤の目のように整ったアスペンの街並みを見下ろしながらすべる



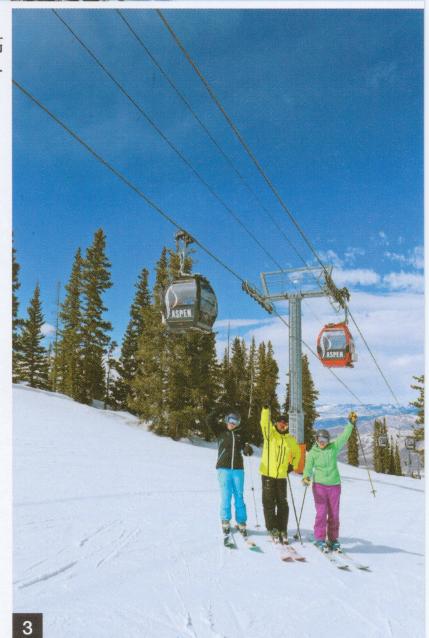
1

3.アスペンマウンテンのシンボル、シルバークイーンゴンドラは標高差995mを一気に運ぶ 4.パウダーパークにも人気が高いハイランド



4

上級者も満足の 4つのスキー場を もつアスペン



3

共通リフト券で滑走できるスキー場は4カ所。それぞれが充分一日楽しめるスケールだ。

アスペンの長い歴史の始まりであるアスペンマウンテンから、一気に山頂まで運ぶゴンドラに乗る。ゴンドラの窓からは急斜面、コブラ斜面のオンパレード。山頂レストランに入ると、クラウス・オバマイヤー、クリス・ダベンポートなどレジエンドスキーヤーの大きなパネル写真が飾られている。隣の

年にはスキー場がオープン。後に、富裕層や芸能人が別荘を構えるようになり、たちまち高級リゾート地として発展する。街には、ブランドやグッチのようなブティックがあり、ラグジュアリーな雰囲気があふれる一方で、スキーバムのようなローカルが多数暮らしているのもアスペンらしさだろう。

*

アスペンもベイルと同様「高級リゾート」と称される。しかし、その空気感はずいぶんと違う。ベイルが企業の多額の投資により開発されたリゾートだとしたら、アスペンは白馬や野沢温泉のよう、村人たちがその魅力を発見し、作り上げてきたリゾートだと言える。古くは銀鉱山の街として繁栄したが、恐慌の影響でゴーストタウンと化した。しかし、1946年にはスキー場がオープン。後に、

富裕層や芸能人が別荘を構えるようになり、たちまち高級リゾート

地として発展する。街には、ブランドやグッチのようなブティックがあり、ラグジュアリーな雰囲気があふれる一方で、スキーバムのようなローカルが多数暮らしているのもアスペンらしさだろう。



5.アスペンマウンテン山頂にあるレストラン、サンデッキ 6.スノーマスのエルクキャンプレストランは最近できたばかり。今時の建築が周囲の景観に馴染む 7.8.ハイランド山頂部にはローカルスキーヤーに愛されるビッグフェイス「ハイランドボウル」があり、ハイクもしくは無料のスノーキャットでエントリー可能。雪崩の危険性も高いのでパトロールが常時コントロールを行なっている



ハイランドでは、山頂からハイクかキャットでアクセスできるハイランドボウルが望め、目の前には立派なパトロール小屋があり、雪崩対策なども徹底している。また、バターミルクでは大会に向けて世界初の二連スーパー・パイプを整備中、スノーマスは標高3750mまでリフトで上がることができ、多数のエクストリームテレインが連なる。リゾートの色を出しながら、こうしてコアなフリースキーヤーが集まる要素をもち合わせているのがアスペンだ。

もちろん、エクスパート向けのコースばかりではない。縦に長いアスペンマウンテンやハイランドは上級者向きだが、横に長くレイアウトされたエリアの規模を誇るスノーマスは、子供やビギナーにもやさしい。コース脇や麓には、スキーインスキーアウトが可能な宿が立ち並び、全91コースのバリエーション豊かなコースが揃う。また、レンタルなどのサービスもよく考えられている。たとえば数日借りるとても、すべり終わったら夜間は無料預かりサービスがあつたり、次の日、別のスキー場へ行く場合、翌朝には無料で次のは行き先へ届けてくれる。アフタースキーは手ぶらで街歩きができる

クラウス・オバマイヤー

1919年ドイツ・オーバーシュタウフェン生まれ。1947年よりアスペンスキースクール所属、オバマイヤー設立。日中はレッスン、夜は起業家としてさまざまな商品を開発。スキーテacher、スキーチャンピオンとしても数々のアワード、戦歴を残しているリアルスキーヤー



Kraus Obermeyer

アスペンのレジェンドスキーヤー クラウス・オバマイヤーを 訪ねて

スキーウエアブランド「オバマイヤー」の本拠地であるアスペン。

アスペンの歴史は、95歳の現役スキーヤー、クラウス・オバマイヤーとともににある。

アスペンを訪れると決まった時、どうしても会ってみたい人がいた。

ドイツ・アルプスの小さな村に食事をしながら経歴を聞く。

クラウス・オバマイヤー、95歳。アスペンを代表するレジエンドスキーイヤーだ。昨季、日本に上陸したスキー・ウェアブランド「オバマイヤー」の創業者であり、アスペンで彼の名を知らない人はいない。

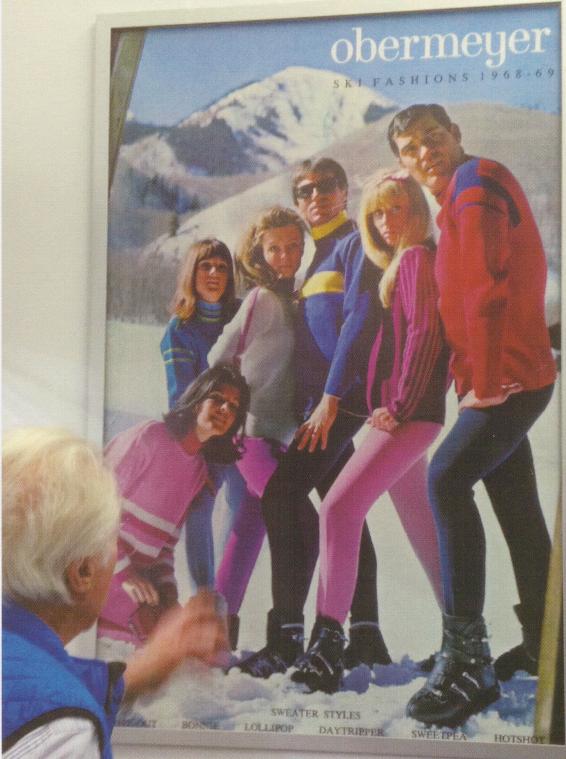
ウエアブランドとしても60年以上の歴史をもち、北米ではキッズからシニアまで広く愛されている。

クラウスは今も現役で毎日スキーをつけている。取材当時はいくつ大脚骨を痛めてリハビリ中といたが、我々取材班はすぐに迎してくれ、有名ホテル

での朝食の招待を受けた。一緒に生まれたクラウスは、子供の頃から山岳スキー、競技スキー、スキー・ジャンプなどをしながら育った。1947年にアスペンスキースクールが開校、スキー教師として招聘されたのがキッカケで、アスペンで暮らすようになる。当時のアスペンは、スキー・リゾートとして開発が始まったばかりの時代。多くのゲストは2週間の滞在予定でアスペンに訪れるが、あまりに寒くてすぐに帰ってしまう。自分のゲストたちにいかに快適にスキー



街の中心部にあるオバマイヤーの専門店。アスペンのようなマウンテンリゾートで街歩きをすることを考え、ウエアはデザインされる



1.アスペン空港の目の前にあるオフィスを訪ねる。古いポスターが並ぶ 2.アスペンのスキー場内メインレストランには、若きクラウスの滑走写真が特大パネルで飾られている 3.歩くよりもスキーのほうがラクだと笑うクラウス。とても90代には見えない

最後に、95歳ながら今もなおスキーのためにリハビリを続け、前向きに生きている、その原動力は何ですか、と尋ねると、「あなたの女性と話すためだよ！」とおちやらけた顔で答え、一同が笑いの渦に飲まれる。

クラウスは終始、笑顔だった。その明るさと、スキーにすべてを賭けた情熱はアスペンの宝だろう。アスペンは、クラウスのような本物のスキーヤーとともに歩んでき

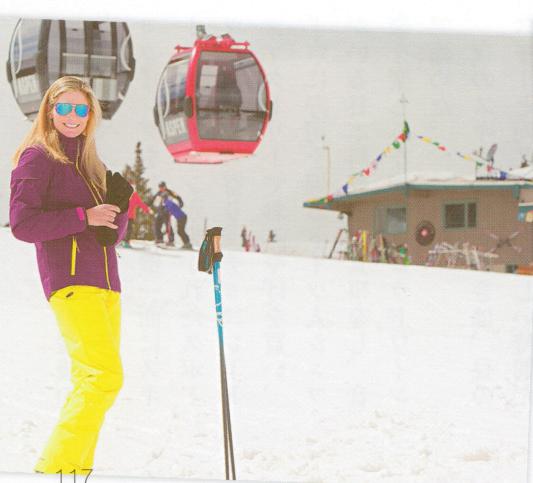
みんながスキーを楽しむための快適な環境作りが目的だつたのだ。彼の信念は長い年月を経た今も製品にしつかり反映されている。

「スキーをする環境を簡単にすることがその時の私の原動力だつたんだ。スキーヤーの休日をより楽しく、より簡単に、演出できるよう毎日考えていたのだよ」

クラウスは当時を振り返る。お金を儲けるための起業ではなく、スキーをする環境を作りたかったのだ。

みんながスキーを楽しむための快適な環境作りが目的だつたのだ。彼の信念は長い年月を経た今も製品にしつかり反映されている。

高機能性はもちろん、楽しい気分になるようなファッショニズムは、スキーへの愛の表れだろう。



オバマイヤーのカタログ写真はすべてアスペンで撮影されたもの。人気のキッズウエアから各年代に合った多数の商品を展開。日本では白馬に直営店があり、今季ニセコにもオープン! 詳細はP161へ www.obermeyer.jp



モンクレールなどハイエンドなブランドショップがよく似合う



滞在したホテルアスペン。使い勝手もよく快適 www.hotelaspen.com



街の中心部にあるレストラン Casa Tua。味も空間も素晴らしい



ハイランド目の前にはリツカールトンのコンドミニアムが並ぶ

過ごしやすい大人の空間が充実



ハイランドのセンターハウス。すべて前にくつろいでしまう

ペイル＆アスペンの旅の最後の夜。アスペンの街でウインドウショッピングをして、壁一面にスキーヤーのサインが書かれたスポーツバーに立ち寄り、チヨコレートファクトリーでおみやげを買い、丁寧に寿司を握るドイツ人シェフがいる日本料理屋で食事をし、音楽を楽しみながらコロラドワインで締めた。

夜のスキータウン歩きは、昼のスキーと同じくらい楽しい時間だ。スキーの街だから、知らない人と話してもすぐにスキーの話題になる。アスペン空港まで自家用ジエットでやって来るセレブも、同じ趣味をもつ人だと思うと、そこに垣根はない。何よりもフレンドリーで、明るい人が多いのが、「ザ・アメリカ」である。

また、街を歩くと、ブティックやレストランの他に、アートギャラリーが多いことに気づく。夏に開催されるクラシックの音楽祭は60年以上も続いているという。環境に恵まれたマウンテンタウンは、スポーツのカルチャーダけでなく、さまざまな文化を育てる。

ワイルドで広大なロッキー山脈で育った、人々を楽しませるプロフェッショナルたちとの触れ合いは、日本やヨーロッパでは感じられない魅力があった。

Travel Information

アメリカンなクルマで自由自在 ハーツレンタカー

■ハーツレンタカー予約センター ☎ 0120-489882 www.hertz.com

デンバー空港から各リゾートへは、乗り合いシャトルバスなども充実しているが、レンタカーを借りて自由自在に動くのも便利だ。今回の旅では、デンバー空港にあるハーツレンタカーを利用。スキーの中積みができるミニバンで、国道70号沿いをひたすら走る。ベイルのスキー場はほとんどが国道沿いにあるので、移り変わる景色も楽しい。また、いくつかのスキー場をめぐりたい、コンドミニアムに泊まり大型スーパーで買い出しをしたい、という場合にもレンタカーがあると役立つ。ハーツレンタカーでは、日本語音声機能付きのカーナビや、初めての海外ドライブでも安心のサポート体制を備えている。ただし冬のベイル、アスペンでは道路が凍結することもあるので、雪道運転に慣れていない人は要注意。



デンバー空港にあるハーツレンタカー。日本での事前予約を済ませておけば、スムーズに借りることができる。アメリカらしい一本道を走るドライブで旅の気分も高まる

コロラドを代表するふたつのスキーリゾート ベイル&アスペン

■ベイル www.vail.com アスペン www.aspensnowmass.com

アメリカ内陸部、ロッキー山脈を有するコロラド州には26もの大型スキー場がある。の中でも群を抜いて人気なのが、今回紹介したベイルとアスペン。日本からのアクセスはどちらもデンバー空港が便利で、クルマで西へ約2時間半でベイル、さらに2時間ほど走るとアスペンがある。またデンバーからアスペンへは、国内線でのアクセスも可能。約45分のフライトでアスペン空港からスキー場まではわずか5kmだ。ベイルには、ベイル、ビーパークリーク、ブリッケンリッジ、キーストン、カッパーマウンテンといったスキー場がある。アスペンには、アスペンマウンテン、スノーマス、ハイランド、バターミルクの4つ。ベイル&アスペン両方をめぐるのであれば、最低10日間は取りたい規模感だ。



中斜面が多く、誰でも楽しめるベイル（左）。リゾートの活気も一番だ。ハイランド（右）など、上級者向けのコースも多いアスペン。各スキー場の詳細は「スキー・アメリカ」のHPが詳しい

日本からデンバーへの直行便はユナイテッド航空だけ 便利な時間帯と快適な機内環境にも注目

■ユナイテッド www.united.com

日本からデンバーまでは、ユナイテッド航空が毎日直行便を運行している。往路は成田空港を18時頃飛び立ち、10時間半のフライトを経て、昼過ぎにデンバーに到着。復路はデンバーを昼に出て、翌日夕方には成田に到着と、無理のない時間帯でのフライトがうれしい。

使用機材は最新鋭機ボーイング787ドリームライナー。より地上に近い気圧と湿度による快適性に加え、二酸化炭素排出量の低減も実現。また、電子カーテンを採用し、外からの光量を調整

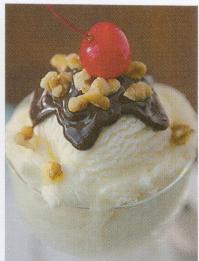
できる大きな窓や、広い頭上収納棚、強化された換気システムも秀逸だ。

さらに、ビジネスクラス「ユナイテッド・ビジネスファースト」では、就寝時に水平になるフルフラットベッドシートを搭載し、ゆったりとくつろげる。チェックインカウンター や保安検査での優先や、wifiなどが無料の会員制空港ラウンジも利用できる。機内食は日本食を含む4種類のメインディッシュからチョイス。同社のマスター・ソムリエが選ぶワインセレクションも楽しみたい。

UNITED



ビジネスクラスには就寝時に水平になるフルフラットベッドシートを搭載



機内食ではボリュームあるフルコースに、デザートにはアイスクリームサンデーも

取材協力・ベイルリゾーツ、アスペンスキーイングカンパニー、ユナイテッド航空、コロラド州政府観光局、ハーツレンタカー、リバティースキー、オバマイヤー
special thanks: Vail Resorts, Aspen Skiing Company, United Airlines, Colorado Tourism Office, Hertz Asia Pacific, Liberty Skis Corporation, Sport Obermeyer